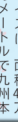


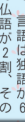
平成20年度
スイス・フランス経済視察報告

本所国際交流委員会(志摩英和委員長)では、平成20年7月9日から7月18日までスイス・フランスの経済視察を実施しました。視察団(岸脇淳介会長)はまず、スイスの環境問題について研修を行いました。

スイスは面積4万平方メートルで九州本島よりやや大きい位であり、人口は746万人、首都ベルンの人口は約12万人です。



主としてグルマン民族で、言語は独語が6割で仏語が2割。その他伊語やレイト・ロマンス語がごくわずかですが言語としてあるそうです。



スイスは1815年
に永世中立国となっ
ており、EUには加
盟していませんが、
通貨はユーロでは
なくスイスランデ
ン。主要産業は精密機・金融・観光産業で、日本には
輸出時及び医薬品が輸入されており、一方日本からの輸
出は乗用車や家庭電器等などです。今回訪れたのは、
ツェルマット。スイスの主要産業である観光業で成り
立っている都市です。ツェルマットは人口約6000人、
標高1620mある谷間の町です。ここはホテルが17
軒約6500ベッド、ホテル・アパートメントが680
軒約6500ベッドあり年間約1万泊の集客があります。そ
で長年滞在の方が大人数を証明するヒーター・シャ・高き
がツェルマットの人気を占めています。物見遊山のスイ
スに観光地としてはなく、滞在型リゾートとして、四季
を通じて提供している様々なアドベンチャー、サ
チャ、エコ・スポーツなどの体験プログラム、
が大変人気であり、顧客層からの圧倒的な支持を得ていま
す。これらでのログラム・ツアーは観光局や山岳・サ
ド協会、スキー・スノーボードセンター、宿内施設など
の地域事業者が、丸ごと借りて取り組む、宿泊型レスト
ラクション・サービスをするガイド・レストラン・カ
域密着型・イタリア・リタイアとして盛況です。ツェ
ルマットのイタリア・リタイアは、然るや歴史文化への解
説だけでなく、ゲストにツェルマット全体の魅力を
伝え、全てでなくては満足して頂くことを絶えず求
めます。例えば、スキー・ストラップ・スキーの要
求に合わせたバス、スキー・レストラン・スキー以外
のスキー・スキー等の相談がランチのレス・手配、フ
ィールドでの自然観察や町の歴史を聞き、いかにグ
ラフィを高めることができるかを誇るリゾート地におけ



るコーディネーターとしての役割も果たしているのです。

これはアルプスのナイト・イーストという全長400kmの地域代表のひとりであるという自覚を持って、この地域密着型インターネット・フリターとして、担当しなくてはならないと大満足させ、ツエルマットのリピーター・フンとすることを使命と考えようというのである。

エコツーリズムの先進地としてツエルマットが有名な。一般の自動車を持ち入りかえす。馬車と電気自動車だしか認めないというカッセル・フリー、馬車に電気を動力として発展してきた歴史と、氷河を抱くアルプスの山

から集落での多様な自然環境と共生してきた実績に
よる。自然だけでなく、地域の歴史・伝統、固有の
活文化など有形無形に関わらずしっかりと保全・継
ぎ継がれているのです。その他にもトイレからゴミ処理、景観
建築、エネルギー、電気自動車の導入等、様々な自然
生活環境との共生と保全の手法が確立されています。
これらの取り組みは決して観光・リゾート地としての集

を目的としたものではなく、基本は山に地域住民がら住みよいためつくりを長い年月をかけて実践してきた結果なのです。またツエルマルツの環へ入る取組みとして、標高3820mにも汚水汚物を垂れ流さないよう、水を使わない特製トイレを設置しています。また標高3000m以下では、どんなに離れた客の小屋から、町の下町にある下水処理場まで配管されています。ミは分別収集とリサイクル化を徹底、1997年には、内にリサイクルセンターが作られました。また町内を村の専断職員が朝から清掃しています。

さらにツエルマット製の電気自動車もあり、事業所まで無料で移動が可能となっています。バスはソーラーパネルで動くものや四輪駆動まで保有しています。ツエルマットが世界の人々を魅了しているのは、ツエルマットといわれるツエルマットらしい、そして、スイスといわれている地域特有のリビリティにあります。



100年以上前からほとんど変わらない街並と自然景観をいまだに見ることが出来るのです。観光の中に地域があるのではなく、地域の自然や生活環境の中にこそ本来の観光があります。地域住民からもお客様からも愛される地域を構築する為に、ツェルマットは今後も力・フリー・ソフトウェアとしてエコツーリズムを実践していく予定です。

フランスは人口6300万人で日本の1.5倍の面積を持つ国で、主要産業は、化学、機械、食品、繊維等である。においては、西欧最大の規模であります。また工業においては宇宙・航空産業、原子力産業などの先端産業が発達しています。

日本への輸出はワイヤ・フラット品のバックル、医薬品などが輸出され、日本



A photograph showing three people standing in front of a display case filled with various products. On the left is a man in a dark vest over a light shirt and white pants. In the center is a woman in a red jacket with a white cross on the chest and white pants. On the right is a man in a white shirt, dark pants, and a black shoulder bag. The display case behind them contains many small, packaged items, likely medical supplies or pharmaceuticals.

たは自動車、ビデオカメラ、自転車等が輸出に占められた。この経済力から見て、輸出それが輸出に占めるシェアはまだまだ低くなっており、輸出の占める割合は23%くらいかもしれませんが、フランスとしてはこの2007年の直接投資は109.5億ユーロとなり、前年の64億ユーロから大きく拡大しました。日本企業による工場建設への進出は、1967年にKFKのフラスノ工場開設が最初に進出で、味の素や家電メーカー（パナソニック）が最初に進出しており、フランスの経済生活も、現在は約32%がユーロゾーン、さらに自動車産業でも、現在では約20%がユーロゾーンです。フランスの経済生活も、現在と同様に原価価格及び食料品価格の急騰を背景に消費者物価指数が高騰を遂げる高い水増し医薬品があります。また2008年3月の影響をうけて、航空機水増し医薬品の輸出はユーロが大きな収益減となっております。エアバスなどは輸出が10%にセロト値がなりす。10億ユーロ、約170億ユーロの損にのちと言われている。実際のパリ市

市内の市場や百貨店に行ってもユーロ高の影響で物価が高くて、例えば毎日のコーラ日本では120円が150円では180円、ユーロ約120円で販売されているのが現状でありまして、ユーロユーロ、ユーロウィットのバリ支店を見つけた時は、日本人観光客で賑わい、影響を感じることほどでませんでした。

以上、今回の海外視察でスイスの環境産業の重要性とランズ経済の欧州における耐久力の強さを実感させられた素晴らしい参加者の皆様にもそれぞれに意義深い視察になったこととなります。



写真：パリ凱門（Arc de Triomphe）の前で観光客が写っている。

